

インドネシアの最近の治安情勢（ジャカルタ）

1月14日（木）午前10時頃、首都ジャカルタの中心部のスカイラインビルで爆弾テロ事件が発生した。スカイラインビルは当クラブの入居しているビルで、事件現場はまさに筆者が毎日コーヒーを買っていた米系コーヒーチェーン店であった。事件発生後、過激派組織「イスラム国（IS）」が今回の爆弾テロへの関与をほめめかしたことから、警察は当初、現在シリア在住でISに合流したとされるバフルン・ナウム氏が首謀者ではないかと発表した。その後の捜査で、過激派思想の師と仰がれ、インドネシア国内の刑務所に収監されている服役囚が事件の黒幕として浮上した。今回の爆弾テロ事件の首謀者も服役囚に複数回面会し、テロを実行すべき時期などに関して指示を仰いだと言われている。

これに対して警察・軍も、治安維持には非常に力を入れてきており、中部スラウェシ島で活動する過激派グループの掃討作戦を展開するほか、ジャワ島内でも爆弾製造拠点の摘発やテロに関与したとされる容疑者を次々と逮捕・拘留し、相応の成果が上がっているとの報道が見られる。また服役囚がテロ事件の黒幕になったことの反省から、刑務所の囚人管理体制にもスポットライトがあてられている。

爆弾テロ事件を受けて、当地では日本大使館などが主催する安全対策セミナーが開催された。リスクコンサルティング会社によると、政府のこのような対策により治安情勢は相当コントロールされているとの認識を示した。2002年以降に起こったような大規模な爆弾テロの可能性は大きくはないものの、ISからインドネシアにどれだけ帰還するのかが未知数であり、また過激派思想の信奉者が摘発しにくい細胞ネットワークを構成し、小規模な事案を起こすリスクがあると指摘している。

今回の事件を日系企業がどのように感じているかという点、企業によってまちまちな対応である。事件直後に取ったアンケートによると、各社の危機管理レベルに変化はあるかとの質問に対して、「危機管理レベルを上げた」とする企業が60%、「従来通り」とする企業が40%である。また、平常の危機管理レベルへ戻す見通しとして、概ね3か

月間特段次の事案がなければ平常時に戻す、あるいは他社の動向を参考にして解除する、とする企業が多い。（下記アンケート結果を参照）

http://jjc.or.id/houjin/news/160120_bincident_reaction/

筆者の肌感覚としては、事件当初は出張の取りやめや不要不急の外出の自粛などは見られたが、日本からの要人や経済視察団の来訪は元に戻り、ビジネスマンの出張往来で飛行機も混雑していると聞いており、平常に戻ったのではないかと感じている。今回のテロはジャカルタの中心部で起き、製造業の多くは周辺の工業地域に所在しているため、危機意識に温度差があること、また不幸にして死傷者も出たものの事件としては周辺国でのテロ被害よりも小規模であったことが挙げられると思う。

事件から3週間後の2月1日、事件の現場となったコーヒーショップは何ごとにもなかったように再開した。初日から客で混雑していたものの、それまで毎日通っていた筆者は怖くて足が遠のいていた。その後何かのきっかけで入店し、現在ではほぼ毎日通っている。顔なじみの店員もまだ働いている。こうして事件は風化していくのだろう。

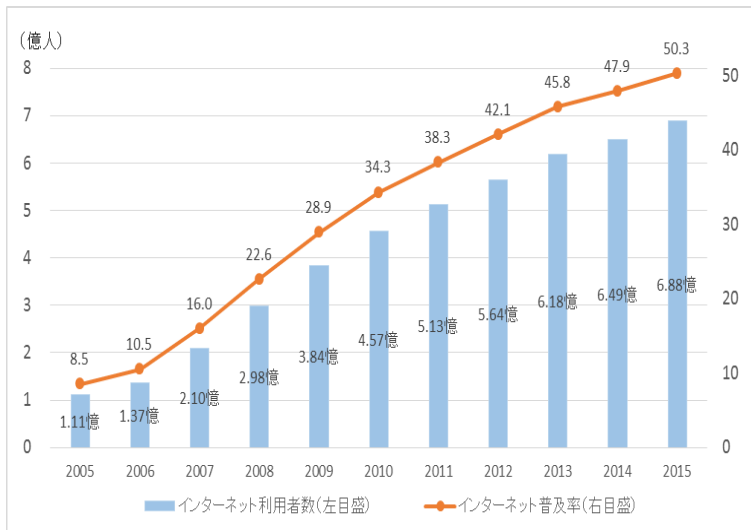


(写真) 爆弾テロ当日のコーヒーショップ

(ジャカルタ・ジャパン・クラブ 事務局長 吉田 晋)

最近の北京の世情（スマホが手離せない中国の人たち）

4月の上海レポートでスマホの便利さに触れられていたの、北京での状況を少し詳しくご紹介しよう（都市部はおそらくほとんど同じ状況かと思う）。



（グラフ）ネット利用の進展推移

◆現代中国人にとりスマホは国民身分証と同等に重要

中国のインターネット人口は 6.9 億人。うち、6.2 億人がモバイル機器でネットを利用している。スマホの普及が凄まじく、いわゆるガラケーを持っている中国人は見かけない。地下鉄車内の喧騒が和らいだのは、スマホをいじっている人が多いからだ。街なかでスマホを電話として使っている人を見かけることも、まず、ない。皆、指を動かしている。たまにスマホに話しかけている人もいるが、ボイスメッセージの吹き込みだ。いま中国人からスマホを取り上げたら、以前わが家の高校生の娘から一瞬でも取り上げた時のような騒ぎが何億人分かになるのではないかと。そんなこと、想像するだに恐ろしい。

中国の人々は「居民身份证」という国民 ID カード（18桁の永久「マイナンバー」制となっている）を肌身離さず持つことが義務付けられている。現代中国人にはスマホも義務付け？と感じるほどだ。

◆スマホだけでほとんどの用が足りる！？

日本でお馴染みの無料通信アプリと言えば LINE だが、中国では圧倒的に微信（WeChat。中国語読み：ウェイシン）だ。便利ツールの中核をなすアプリと言っている。文字・音声・映像によるコミュニケーション

はもとより、代金決済機能を備えて活用の幅が格段に広がっている。北京で現金もカードも持たずに 24 時間生活できるかという“実験”を行った米 CNN 記者は、それが十分可能だったことを踏まえて「中国のスマホビジネスは米国のかなり前を走っている」と語った。億単位の巨大な消費マーケットを狙う者たちがアプリ開発・知恵出しにしのぎを削っている。

検索大手の百度が展開する Baidu Map は、使いやすいナビだ。スマホの地図画面で地点をタッチすれば、交通手段ごとに最適なルートと所要時間を教えてくれる。地点間なのでドア to ドアの情報であり、歩く距離などを考えて好みの方法を探ることができる。近辺にどんな店があるか等の情報提供もかなり充実している。

店と言えば、日本でも一般的なグルメ検索がある。中国では大衆点评というサイトが抜きん出ている。店ごとに提供される「團購」という前売りクーポンがお得だ。7 割引のセットメニューなんていうのもあり、元の値付けを疑いたくなるが、写真付きなので確認できる。購入者は WeChat のような“ネット財布”を使い、サイト上で即決済する。現金は使えない。

店への往復にはタクシーを拾う場合も多い。最近日本で話題になったような配車アプリが便利だ。北京では、正式な認可タクシー以外に数種類の“白タク”が分類登録されており車種ランクごとに選べる。アプリを立ち上げると地図上に動いている車の絵が表示される。



配車アプリ画面に刻々と車が表示される

GPS で全て把握されているので、自分の近くに何台の空車が走っているかが分かる。行先を入力すると、乗車 OK の運転手から電話がかかってきて乗車場所等の確認が行われる。スマホ画面には車番、運転手の名前などが表示される。支払いは、正規タクシーは現金、それ以外はスマホ払いのみの受付となっており、ここでも WeChat 等が活躍する。

宴会の帰りにコンビニに寄ったら、現金を出したりおつりを確認したりするのが面倒だったりする。スマホで 2 次元コード（バーコードもしくは QR コード）を店員に示せば、ピッと読み取ってくれて支払い完了だ。中国ではデビットカードの利用者も多いが、なぜか中国ではサインが要るので、こちらの方が断然早い。

外国人には使えないサービスもある。先日、出張する際に高铁（新幹線）を使った。事前に代理店で購入したチケットは紙製で自動改札機が使えない。スマホや PC で予約していた中国人は、必携の ID カードとスマホでさっと改札を通過して行く。車内の検札もスマホで対応。楽なものだ。高铁は中国 ID が必要（パスポートではだめ）なので、外国人はチケットを買うしかないのだ。

◆中国のネット規制

話はそれるが、中国にはネット規制があり、普通には、Youtube も Facebook も Twitter も見れない。また、LINE は 2 年前の夏に突如として使えなくなっただけから今に至るまで使えないままだ。ただし、よほどこれらの特定アプリにこだわりがある人以外は、中国にいて困ることはない。例えば Yahoo は使える（日本版は時折遅くなったりするが）し、WeChat で世界と繋がり、百度（Baidu）など便利ツールがいくらかもある。また、筆者をはじめ駐在員は少なからず VPN（仮想プライベートネットワーク。年間 1 万円程度のもが多い）を利用しているので、日本にいるのとあまり変わらないネット環境を得られる（中国には、映画やテレビが無料で観れる有名なネットアプリが複数ある。ところが、VPN に繋いだ状態だと観れなくなる。意味はお分かりのことと思う）。

1 つ真面目な（？）話を。去る 4 月 19 日に、「サイバーセキュリティおよび情報化作業座談会」が北京で開かれた。検討グループの長を兼ねる習近平国家主席は重要講話として、中国で情報化が急速に発展した

一方で短所と課題もあると認めたくえ、「ネット上の共産党や政府、役人等に対する批判的な意見に対し真剣に検討・吸収する」と話した。習体制下で言論統制は厳しさを増してきたと言われる中でこの講話が意味するものは何か、本当に批判を受け容れるのか、ウォッチが必要だ。

◆終わりに

知人の中国人経営者は、スマホを 4 つの口座、しかもクレジットカードにまで連結させて便利生活をしている。最近、ようやく WeChat に支払い機能を追加することにした筆者。出遅れ日本人のスマホ財布活用開始だ。事務所の中国人スタッフにホントに便利だよねえと言うと、「私はあまり信用してないので使ってないですけど」とひと言。・・・中国は広い。

（中国日本商会 事務局長 五十嵐 克也）